

2026年4月14日（月）朝 住宅建築資材 緊急情勢ブリーフィング

米国のホルムズ海峡対イラン封鎖が4月13日に正式発効し、原油は週明け\$103超へ急騰。田島ルーフィングの全面受注停止（4/10～）、TOTOのユニットバス新規受注停止（4/13～）が新たに確認された。4/8版レポートからわずか6日間で、建材市場は「値上げフェーズ」から「供給途絶フェーズ」に移行しつつある。イスラマバード交渉の決裂と封鎖の正式発効により、4月21日の停戦期限を前に中東情勢は一段と悪化。週明け東京市場は原油高・円安・株安のトリプルパンチで始まる見通しで、建材の追加値上げ・出荷制限の第2波が今週中に相次ぐ可能性が高い。

地政学：封鎖が「宣言」から「実行」へ移行した週末

ホルムズ海峡の現状

4月12日（土）、トランプ大統領がTruth Socialで「逆封鎖」を宣言。[\(Global-scm\)](#)翌13日10:00 ET（日本時間14日0:00）、CENTCOM（米中央軍）が封鎖の正式発効を公表した。[\(Rocket-boys\)](#)
[\(CNBC\)](#)対象は「イランの港および沿岸区域に出入りする全船舶」に限定され、イラン以外の港への往来は妨害しないとされる。[\(CNBC +4\)](#)ただし実効性には疑問符がつく。

封鎖発効の直前、4月11日に米海軍駆逐艦2隻がホルムズ海峡を通過して機雷除去作業を開始。[\(Wikipedia +2\)](#)IRGC（イラン革命防衛隊）海軍はVHF無線で「これが最後の警告だ」と通告したが、物理的な妨害行動は取らなかった。[\(The Hill\)](#) [\(Global-scm\)](#)トランプはFox Newsで「イランの高速攻撃艇が近づけば排除する」と追加警告し、[\(NPR\)](#)WSJはイランへの限定軍事攻撃の再開も検討中と報じている。[\(CNBC\)](#)

通航実態の数字は危機の深さを示す。平時は1日約135隻が通過するホルムズ海峡を、[\(Bloomberg\)](#)停戦後の4/8-11の5日間でわずか22隻しか通過しなかった（[\(Al Jazeera\)](#)S&P Global調査、AIS発信船ベース）。封鎖発効後の4/13には、制裁対象のイラン「影の船団」タンカー1隻が通過する一方、別のタンカーはUターンしてUAE向けに変針、もう1隻はゲシュム島沖で漂流状態となった。[\(CNN\)](#)湾内には約2,190隻・約2万人の乗員が足止めされており、うち日本関係船舶は約44-45隻（日本人船員24人）とされる。[\(Global-scm\)](#)

イランの対抗姿勢

IRGCは4月12日の声明で「軍艦がホルムズ海峡を通過しようとする試みには厳しく対処する」と宣言し、民間船舶のみ「特定条件下」で通過を許可する姿勢を示した。[\(The Times of Israel\)](#)さらにイラン国家安全保障委員会は「トランプがホルムズに対して行動を起こせば、バブ・エル・マンデブ海峡（紅海入口）も失う」と警告し、フーシ派による紅海ルートへの連動攻撃[\(Rocket-boys\)](#)を示唆した。これが実行されれば、欧州産木材・建材の輸送ルートも脅威にさらされる。

ガリバフ国会議長はX上にワシントンDC近郊のガソリン価格写真を投稿し「[\(Rocket-boys\)](#)封鎖が進めば\$4～5の価格が懐かしくなる」と挑発。[\(CNBC\)](#)一方、CNNは米情報機関の報告として、中国が数週間以内にイランに新たな防空システムを納入する準備を進めていると報じた。[\(CNN\)](#)

外交は分断の一途

イスラマバード交渉は4月11-12日に21時間超にわたって行われたが決裂した。(Time +3)バンス副大統領率いる米側約300人とガリバフ国会議長・アラウグチー外相率いるイラン側71人の(Xinhua)1979年以来最高レベルの直接対話だったが、(NPR)核問題(ウラン濃縮停止の要求vs主権的権利の主張)とホルムズ海峡の管理権((Xinhua)(TRADING ECONOMICS)米:無条件再開 vs イラン:通行料徴収権維持)で根本的に相容れなかった。(TRADING ECONOMICS)

各国の動きは明確に割れている。英仏は米国の封鎖に不参加を明言(CNBC)し、(CBS News)マクロン大統領は「航行の自由回復を目的とした防衛的多国籍ミッション」の会議を数日以内に開催すると発表。(NPR +2)NATO上級軍事当局者によれば英国主導で40カ国超の連合体を組成中とされる。(CBS News)一方、ロシアと中国は4月7日の国連安保理決議案に拒否権を行使済み(Bloomberg)で、ラブロフ外相が4月14-15日に訪中して中東情勢を協議する。(ANI News)

サウジ石油施設は復旧、だがリスクは残る

4月8日にドローン攻撃を受けたサウジの東西パイプライン((Bloomberg)紅海のヤンブー港向け、最大700万bpd容量)は、4月12日にフル稼働への復旧をサウジエネルギー省が発表した。マニファ油田(約30万bpd)も全稼働に復帰。(Al Jazeera)ただし3月のジュベイル石油化学施設(SABIC)への弾道ミサイル攻撃(TRT World)の影響は続いており、石油化学製品の供給制約は解消されていない。

イスラエル・レバノン：停戦は完全に形骸化

イスラエルのレバノン攻撃は収束するどころか激化している。4/13時点でIDF第98師団がビント・ジュベイル(ヒズボラの象徴的拠点)を包囲し地上突撃を開始。(CBC News)同日の南レバノン空爆で新たに6名以上が死亡し、赤十字ティール拠点へのドローン攻撃で救急隊員1名が死亡した。(Al Jazeera)(NPR)3月2日以降のレバノン側死者は2,000人超、避難民は100万人超に達している。(CNN)(CBC News)ネタニヤフ首相は4月13日に自ら南レバノンに入り「避難住民は自宅に戻ることを許されない」と宣言した。(NPR)

日本への「軍艦派遣要求」については、3月14日のトランプ発言(日本・中国・韓国等を名指し)が原点(Jiji)で、4月の逆封鎖宣言後の新たな直接的要求は確認されていない。高市首相は3月19日の日米首脳会談前に「何ができるか検討中」としつつ「(Nikkei)米国からの正式要請はない」と述べている。

市場：原油\$103超、円159円台、日経は下落スタート

原油は一段高

指標	4/11 (金) 終値	4/13 (月) 取引中	変動幅
WTI原油 (5月限)	\$96.57	\$103.41 (高値\$105超)	+7.1%
ブレント原油	\$95.20	\$103.72	+9.0%
ドバイ原油 (GME)	—	\$105.83	—

ゴールドマン・サックスは「封鎖がもう1カ月続けばQ3にブレント\$120」と予測。[Yahoo Finance](#)
JPMorganは「西側諸国の石油備蓄は5月初旬に運用最低限に達する」と警告し、戦争開始以来2億5,000万バレル（1日660万バレル相当）が取り崩されたと分析した。[CNN](#)EIAはQ2 2026のブレント平均を\$115/bblと見込んでいる。[U.S. Energy Information Ad...](#)

為替・株式・金利

円ドルは4/11の**158.95円**から4/13に**159.73円**へじり安。[TRADING ECONOMICS](#)エネルギー輸入国日本への逆風は明白だ。日経平均は4/13に**56,287円**で寄り付き（前週末比-636円）、前場引けは56,357円。[Kabushiki](#)IG証券の今週レンジ予想は55,700～59,000円。[IG](#)10年国債利回りは****2.490%****に上昇し、27年ぶりの高さを記録した。[Jiji](#)

ナフサ・LNG・非鉄金属

国内ナフサは1月時点で**62,568円/k1**だった[Gomutimes](#)が、その後の原油急騰で大幅に上昇しているとみられる。IEAは「LPG・ナフサ供給の急減が石油化学プラントの生産削減を強いている」と報告。[ICIS](#)アジアへの中東産ナフサは月間約3,500万バレルが途絶リスクにある。[Zoukaichiku](#)

LNGのJKMマーカ―は****\$19.42/MMBtu****（[Investing.com](#)戦争前の\$10から約2倍）。ホルムズ海峡はグローバルLNG供給の約20%が通過しており、[Energy Connects](#) [Al Jazeera](#)カタール・UAE発のLNG出荷が深刻に影響を受けている。

銅建値（JX金属公表値）は4/9時点で**209万円/トン**（4/7の205万円から+4万円）。[Nikkei](#)LME銅は****\$12,660/トン****。[MacroMicro](#)アルミはLMEで****\$3,511/トン****と4年超ぶり高値圏にあり、UAE最大のアルミ生産者EGAの操業停止（イランミサイル被弾）が供給を圧迫している。

[TRADING ECONOMICS](#)

建材メーカー：「値上げ」から「受注停止」へ加速

4/8以降の重大な新情報

4/8版レポートからの最大の変化は、**複数メーカーが値上げにとどまらず出荷停止・受注全面停止に踏み切ったことだ。**

田島ルーフィングが4月10日17:30以降、全ての新規受注を停止した。[Plastic-pallet](#)ウレタン防水材「オルタック」[Craft-bank](#)は4/6に、アスファルトルーフィング類は4/9に先行して受注停止しており、[Yanekabeya](#)4/10をもって全面停止に拡大。再開時期は未定で、既存発注分もキャンセルの可能性もある。[Yanekabeya](#)同社は5/1からの**40～50%値上げ**も発表済みだった[S-housing](#)が、そもそも売るのがないという事態に陥っている。[Plastic-pallet](#)

TOTOは4月13日より、システムバス・ユニットバスの新規受注を一時停止した。[Yanekabeya +2](#)フィルム接着剤・コーティング剤に使用される有機溶剤（ナフサ由来）の不足が原因。[Khitc](#)全シリーズが対象で再開時期は未定。TOTO株は一時前週末比**8.8%安**となった。

ニチハは4月10日付で透湿防水シートの供給制限を通知。外壁工事に不可欠な資材であり、駆け込み・パニック買いの懸念が出ている。

断熱材：全メーカーが異常事態

メーカー	製品	値上げ幅	時期	特記
カネカ	カネライトフォーム	40%	4/1～	実施済み
デュポン・スタイロ	スタイロフォーム	40%	5/1～	ウッドラック含む
旭化成建材	ネオマフォーム	10～15%	4/1～	受注制限・生産停止リスク、一部品番販売終了
フクビ化学	エコランバー等	改定予定	4月～	屋根下地材は受注停止
アキレス	キューワンボード等	見直し中	—	出荷数量・納期・取引条件の調整通知(3/24)

断熱材の供給制約は省エネ基準適合に直結し、断熱材が手に入らなければ着工そのものが止まる。

(Zoukaichiku)プレカット工場にとって最も深刻なリスクの一つだ。

塗料：シンナー75-80%値上げに加え本体も

日本ペイントの4/16追加値上げは**確認済み**。塗料本体10～20%、シンナー15～25%の追加値上げが4/16出荷分から適用される。3月19日のシンナー75%値上げ(Bloomberg)と合わせると、シンナーは実質約100%の値上げに達する計算だ。(Plastic-pallet)一部販売店では「1社につきシンナー1缶まで」の制限も報告されている。

エスケー化研はシンナー**80%値上げ**を実施済み。関西ペイントも4/2よりシンナー50%以上の値上げを実施。塗料業界全体で5月には本体も10～20%値上げの見通し。

その他の主要メーカー動向

旭ファイバーグラスのリッジウェイ30%値上げ(7月～)は**確認済み**。本体と関連部材(ヒップアンドリッジ、スターター等)が全て対象で、(Plastic-pallet)当面は数量制限や新規案件の受注見合わせの可能性が有る。(Yanekabeya)

信越化学の塩ビ樹脂値上げ(+30円/kg、約2割、4/1～)(Zoukaichiku)の波及範囲は広い。(Nikkei)積水化学が水道用塩ビ管の値上げを発表し、(Craft-bank)塩ビサッシ・窓枠・電線被覆・雨どい・床材・壁紙にまで影響が及ぶ。(Plastic-pallet)さらにエチレン減産は国内12基中6基以上に拡大しており、ポリエチレン・ポリスチレン等の広範な化学製品に波及している。

YKK APの5月値上げ(5～10%)(H-bid)(S-housing)に向けた駆け込みは活発で、販売店は「4月中の契約で旧価格適用」と顧客にアナウンス中。(H-bid)(Madoshop-koberokko)ただし中東情勢による樹脂・

アルミ原料の追加高騰で、5月以降のさらなる値上げも懸念される。

LIXILは4月受注分から4~15%値上げ済み (Note) (Plastic-pallet)だが、新たに「樹脂・アルミの調達不安定化により、今後の情勢次第では**生産・出荷・受注の調整や制限**を行う可能性」を示唆。(Note)タカラスタンダードはシステムキッチン約7%、システムバス1~3%の値上げを4月から実施した。

(Note)

その他の注目すべき動きとして、**吉野石膏が6月から石膏関連製品20%値上げ**、** (Craft-bank)日新工業が4/21からアスファルト防水材40%値上げ**、**三菱電機が配電制御機器を最大80%値上げ** (Craft-bank)4/1実施済み)、**伊藤忠建材 (オーウェンスコーニング) が屋根材を6/1から全商品値上げ**、(Yanekabeya)鉄鋼各社 (日鉄建材、日本製鉄、神戸製鋼、共英製鋼) が4月契約分から各種鋼材を5~10%値上げ (Craft-bank)している。サンゲツ・東りも供給量の減少・制限と価格改定の可能性を発表済みだ。(Craft-bank) (Plastic-pallet)

木材：直接影響は限定的だが時限爆弾あり

プレカット用の集成材・構造用合板の価格は4月時点では比較的安定している。ただし**接着剤 (ナフサ由来) の20~30%値上げが始まっており、6~8月頃から集成材・合板への転嫁が始まる**と見られる。輸送コスト上昇も加わり、過去の相関では石油価格上昇開始から約6ヶ月後に木材価格が連動上昇する傾向がある。(Okajimawood)

政策：備蓄放出は進むが建材特化の対策はなお不在

エネルギー対策

政府は3月26日に国家備蓄原油1カ月分 (cas)約850万kl、約5,400億円相当)の放出を開始し、(Nomura Research Institute)IEA加盟32カ国の協調備蓄放出 (合計**4億バレル超**、IEA史上最大) (Wikipedia)の約2割を日本が担う。(cas)ガソリン補助金は**48.1円/L** (過去最高)に設定され、全国平均小売価格を170円/L程度に抑制。(Hojoyokin Portal)財源は予備費8,007億円 (Nomura Research Institute) + 既存基金残高2,800億円の**合計約1兆800億円**だが、NRIの試算では標準シナリオで約74日、悲観シナリオでは6月頃に予算枯渇のリスクがある。(Nomura Research Institute)

ナフサ代替調達は中東以外からの輸入を月45万klから**90万klに倍増** (うち米国30万kl)。

(Zoukaichiku)柏崎刈羽原発6号機が3月27日に定格出力運転に到達し、LNG年間約110万トンの節約に寄与する。

中小企業支援と建材対策

経産省は4月2日に「中東情勢に伴う重要物資の安定的な供給確保のためのタスクフォース」を設置。(Yahoo!ニュース) (METI)医療用品の供給確保が優先され、**塗料用シンナーの供給不安**も議題に上がっている。(METI)セーフティネット貸付の要件緩和と金利引下げが4月1日から拡充された (Mirasapo-plus)が、**建材価格高騰に特化した新たな緊急対策は4/13時点で確認されていない**。高市首相が「医療向け石油供給優先」を発表しており、建設業界は事実上後回しの状況だ。(Zoukaichiku)

住宅省エネ2026キャンペーン

みらいエコ住宅2026事業、給湯省エネ2026事業、先進的窓リノベ2026事業はいずれも3月31日に交付申請受付を開始した。(環境省)開始後まだ約2週間のため具体的な予算消化率は未公表。ただし前年度はGX志向型住宅が7月に予算上限に到達して早期終了しており、2026年も早期終了リスクが高い。注目点として、**みらいエコ住宅2026は予算が前年度から縮小**(新築2,050億円 vs 前年度2,100億円)し、補助額もGX志向型で160万→110万円と50万円減額されている。先進的窓リノベ2026は補助上限が200万→**100万円に半減**、(Seikatsu-do)最低申請額が2万→5万円に引き上げられた。

金融政策と住宅ローン

日銀は政策金利**0.75%**を据え置き中。(Bloomberg)植田総裁は4月13日、信託大会の挨拶(副総裁代読)で「中東情勢の行方や影響を注視して、経済・物価見通しの実現確度やリスクを点検」と述べた。(Bloomberg)次回会合は4月27-28日(Bank of Japan)だが、4月利上げ観測は後退している。ただし元日銀調査統計局長の関根敏隆氏は「中東の供給ショックと財政拡張下で物価急騰懸念があり、4月利上げもあり得る」との見解を示している。(Bloomberg)

フラット35の4月適用金利は**2.490%**(前月比+0.240%、近年まれに見る上昇幅)。変動金利もPayPay銀行・UI銀行等が前月比0.25%引上げ。一方、フラット35は4月1日から融資限度額を8,000万→**1億2,000万円**に引上げ、(Nikkei)床面積要件を70㎡→50㎡に緩和している。(Juken-net)

住宅業界：法改正駆け込みの反動と建材危機の二重苦

2025年の新設住宅着工は**740,667戸**で(Takamatsu-const)(Shikaku)62年ぶりの歴史的低水準に沈んだ。2026年3月は建築基準法・省エネ法改正(4/1施行)前の駆け込みで**89,432戸(前年同月比+39.1%)**と急増した(S-housing)が、4月以降は反動減で大幅マイナスに転じる可能性が高い。建設経済研究所の年度77.7万户予測は(Shikaku)イラン危機前のもので、下振れリスクが大きい。

プレカット業界は大規模な再編期に入っている。ハイビック(LIXIL→投資ファンドへ譲渡)、トーアの美里工場(→江間忠HD)、OCHIホールディングスによる西日本プレカットセンター傘下入りなど、M&Aが加速。最大手ポラテックは自社工場の拡大に加え産業用汎用ロボット導入を進める。(Jfpi)着工減に加え、接着剤等の石化系副資材の供給不安という二重の逆風が、中堅以下のプレカット工場の経営を圧迫している。

建設業の人手不足も深刻度を増し、有効求人倍率は**5.47倍**。2024年の人手不足倒産は**99件**(全産業トップ)で、2022年の34件から3倍に急増。(Gaten)大手・中堅建設会社の約7割が「2026年度内は大型工事を新規受注できない」と回答している。(Nikkei)

クラフトバンク総研は4月7日付の分析で、中東情勢悪化の建設業界への影響を3段階で整理している。①欠品(医療向け優先で建設は後回し)、②値上げ(既存値上げに緊急値上げが二重に直撃)、③倒産(特に新築戸建住宅関連の二極化が加速)。(Craft-bank)

週明け4/14の展望と経営判断のポイント

東京市場の予想

週明けの東京市場は**原油\$103超・円159円台後半・日経56,000円前後**での取引開始が見込まれる。石油関連・防衛関連銘柄は買い優勢、建設・不動産は売り圧力が強まるだろう。10年国債利回りは2.5%台を試す可能性があり、住宅ローン金利のさらなる上昇を織り込む動きが出る。

今週注意すべきイベント

- **4/14-15**：ラブロフ露外相の訪中（中口の中東対応の方向性） ANI News
- **4/16**：日本ペイント追加値上げ発効
- **4/21**：停戦期限（延長されなければ戦闘再開リスク）、日新工業アスファルト防水材40%値上げ発効
- **4/27-28**：日銀金融政策決定会合

4/8版レポートからの主な差分

項目	4/8時点	4/14時点	変化
情勢	停戦合意直後、楽観ムード	交渉決裂・封鎖発効、危機深化	大幅悪化
WTI	\$90台前半（停戦で下落）	\$103超	+約15%
建材状況	値上げ発表が中心	受注停止・出荷停止が複数発生	フェーズ移行
サウジ施設	被害拡大中	パイプライン復旧済み	やや改善
新規停止	—	田島ルーフィング全面停止、TOTO受注停止、ニチハ供給制限	重大な新事態

サイモクホーム（年間300棟）への示唆

即時対応が必要な事項として、田島ルーフィングの代替ルーフィング材の確保が最優先だ。日新工業も4/21から40%値上げだが、まだ受注は受け付けている。TOTOのユニットバス停止は設計段階から代替メーカー（LIXIL、タカラスタANDARD、Panasonic）への切り替え検討が必要になる。Note 断熱材はカネカ40%・デュポンスタイロ40%が確定済みのため、可能な限りの在庫積み増しが推奨Craft-bankされるが、旭化成建材の受注制限により選択肢が狭まっている。

中期的リスクとして、集成材・合板への接着剤コスト転嫁は6~8月頃から本格化する見込み。YKK APの5月値上げ前の窓・ドアの発注と、吉野石膏の6月値上げ前の石膏ボード確保も計画に入れるべ

きだ。ガソリン補助金の予算枯渇リスク（6月頃）も、輸送コストの急騰要因として注視が必要である。

結論：停戦崩壊後の「サバイバルモード」に入る週

4月8日の停戦合意が生んだ束の間の楽観は完全に消失した。イスラマバード交渉の決裂とホルムズ海峡封鎖の正式発効は、**この危機が数週間ではなく数ヶ月単位で続く可能性**を市場に突きつけている。JPMorganの「5月初旬に西側石油備蓄が限界」という警告が現実になれば、建材市場はさらに厳しい局面に入る。

田島ルーフィングの全面受注停止やTOTOのユニットバス停止は、個別メーカーの問題ではなく**ナフサ由来原料の供給途絶という構造的問題**の表出だ。今後数週間で同様の動きが他メーカーにも広がる蓋然性は高い。2021年のウッドショックが「木材の価格高騰」だったのに対し、**2026年の建材ショック**は「石化系建材の供給そのものの消失」という、より深刻な性質を持つ。プレカット工場としては、代替資材の確保、顧客への納期・価格の事前説明、資金繰りの見直し（セーフティネット貸付の活用）を含めた総合的なサバイバル戦略が、今週中に必要となる。